

VIEW

No.129 Jan. 2021

CONTENTS

インタビュー

「新入社員から見た NSRI」 2

自主研究

VIEW Live 開催報告「いかそう、まちの PPR」 6

所員アンケート

「在宅勤務時間増加に伴う生活の変化」 7

新入社員から見た NSRI

コロナ禍というこれまでと違うスタートを切った、2020 年度入社の本多研究員と今枝研究員に、新鮮な目で NSRI の印象や、これからやってみたいこと、目指したいことなどをインタビューしました。

安藤 日建設計総合研究所（NSRI）では2012年から在宅勤務制度の運用を始めていたため、コロナ禍においても、在宅勤務での業務遂行がスムーズに行えたかと思います。しかし、在宅勤務日数が長引くことにより、他の所員とのコミュニケーションが難しくなったのではないかと感じています。

特に新入社員の皆さんには、負担が大きいのではないかと思います。いかがでしょうか？

本多 NSRI はフラットな組織なので、普段のコミュニケーションでつらさを感じることはないですが、出勤時と比較すると在宅勤務では他の所員の方とのコミュニケーションが圧倒的に少ないですね。Web 会議が定着していますが、目的がないと開催できず、その場だけでは空気が汲み取りにくい点が課題です。もっと簡単にコミュニケーションの場が創れる仕組みができると良いなと感じています。今は、OJT（On Job Training）や色々な会議に積極的に参加することで、徐々にここでの仕事の仕方を理解していくように努めています。

今枝 プロジェクトメンバーと対面で会う機会が少ないため、ちょっとした確認や雑談ができないことなどに、不自由を感じています。新入社員の私にとっては、プロジェクトメンバー以外の所員の方の顔や専門性、性格、今まで関わられてきた業務等を理解する機会がないことは深刻な問題です。

安藤 新しい働き方の課題ですね。コロナ禍に

おいても、軽い感じの社内接点を増やす工夫など、会社全体でフォローしていきたいと思っています。

社内接点が少ない中ですが、NSRI には慣れましたか。どのような組織だと感じましたか？

今枝 人間関係がとてもフラットな組織だと感じました。ヒューマンスケールの組織だからというだけでなく、研究機関として、研究者が共通



の目標と価値観を持って仕事をしている点から、そのような雰囲気が出ていのでしょうか。上下の垣根を越えた自由な意見交換の場に、積極的に参加していきたいと思っています。

本多 オフィスは、和やかで良い雰囲気だと思えますが、フリーアドレス席にはまだ馴染めていません。NSRI では、現在 ABW（Activity Based Working）など、仕事の効率性を高めるオフィス空間のあり方についても研究しているので、楽しみにしています。



入社前のキャリアについて教えてください。

本多 福井大学工学部建築・都市環境工学科の准教授として、建築と都市を結ぶくらいのスケールの空間を対象に、人間行動を中心に据えた建築・都市空間のデザインについて研究してきました。確率モデルを用いて人間行動を推測することで、「効果的」な建築要素の配置について定量的に検討することなどです。ここでいう「効果的」というのは、空間利用者に意識してもらえる（作っても気づかれないのは勿体ない）、頻繁に利用してもらえる（利用頻度から経済効果も検討できる）、デザイナーの意図に近い形で解釈している、もしくはそれ以上の解釈が生きている（イメージ戦略）などを指しています。これらの定量的な調査を可能にすることで、デザイン検討ができる方法を探ってきました。人間行動のマルチエージェントシミュレーション（以下、MAS）も研究の特徴の一つです。MASは、色々なものをエージェントに見立ててモデル化することで、幅広い範囲に応用可能なのが強みです。

※マルチエージェントシミュレーション（MAS）
複数のエージェントが相互に関わりあいながら自律的に動く様子を再現するシミュレーション手法

今枝 東京大学大学院博士課程在籍時には、日本学術振興会の特別研究員として超高齢社会の居住空間のあり方について研究していました。特に高齢者の場合「転倒」がきっかけで寝たきりになることや、転倒を繰り返すことで転倒以前の状態に戻れなくなってしまうことがあるため、「転倒」という現象に着目している点が特徴です。この研究を早く社会に役立てたく、日本転倒予防学会の認定資格である転倒予防指導士の資格を取得しました。

今後どのようなことをやっていきたいですか。

本多 都市の賑わいを創出できる新しい都市・建築空間の姿を提案していきたいと思います。マルチエージェントモデルを活用した空間シミュレーション等を実施し、従来、感性的評価しかできなかった空間デザイン領域について、定量的な評価軸を導入することで、多くのステークホルダーの合意形成が得られやすいデザイン手法の開発にも挑戦したいです。また、人間行動を基軸とした新しい研究領域も開拓したいと思います。安藤さんが専門とする自動運転や MaaS 等



の次世代モビリティ領域でも、新しいモビリティと人と都市をつなぐ空間デザイン研究ができると思うと思っています。

今枝 高齢者の生活特性を把握するため、インタビューと自宅訪問調査を数多く実施し、高齢者の生活環境や行動パターンを想像しながら高齢者が求める建築空間を考察してきました。この経験を活かし、都市空間にも研究領域を広げたい



きたいです。説得力のある提案にはエビデンスが重要なため、NSRI が取組むビッグデータの活用の可能性を組み合わせ、空間設計を提案する研究をやってみたいと考えています。

また、高齢者に着目した次世代モビリティや、ヒートショック問題と密接する建築空間内の温熱環境変化など、高齢者が少しでも長く生き生きと暮らせる快適な住環境・都市空間を提案していきたいです。

日建グループのシンクタンクとして、社会貢献することを重要なミッションとしていますが、どのような社会貢献、社会創りをしていきたいと考えていますか？

本多 人間中心の建築・都市空間を創ることを目指していきたいと思います。人間行動から建





築計画を考え、そこから都市を考える、といった具合に。あくまで、人間中心にこだわることで、市民が喜び、幸福を感じるまちづくりをすることで、社会貢献ができればと考えています。そのために、人間行動・コミュニティが、建築や都市にどのように影響しているかの研究を深めていきたいです。

今枝 常にアンテナを広げて様々な知識を吸収するとともに、交流のある医療や情報系の先生方など、幅広い分野との横断的な研究をしたいです。大学での研究では、成果の社会実装が最大の課題でしたが、NSRI のような企業研究所では、より社会実装に近い取組みができると思います。これにより「実学」としての建築分野から社会貢献ができればと考えています。

安藤 NSRI は、持続可能な建築・まちづくりの実現を目指しているので、個々の強みを最大限に活かし、尖った組織となることが重要です。アカデミアンとしての能力を活かしつつ、社会実装を目指したビジネス感覚のある研究に、取り組んでほしいと思います。これまで NSRI は都市系と環境・エネルギー系の研究員が中心でしたが、二

人のような建築計画も融合した新しい領域を築いていってくれることを期待しています。

本多 久美子 | ほんだ くみこ
研究員

専門分野：人間行動や都市のイメージに基づく建築・都市空間デザイン、マルチエージェントシステムによる空間検討



今枝 秀二郎 | いまへだ しゅうじろう
研究員

専門分野：定性分析に基づく高齢者・医療福祉関連の住環境デザイン、災害復興とまちづくり



インタビュー
安藤 章 | あんどう あきら
主席研究員

専門分野：定性分析に基づく高齢者・医療福祉関連の住環境デザイン、災害復興とまちづくり



自主研究 日建設計総合研究所の自主研究成果をご紹介します

NSRI の自主研究成果『PPR the GEARS 公共空間利活用のための道具考』（西尾京介、小林綾、大藪善久 著）の発刊を記念して、昨年 9 月に初めてのオンラインイベント『第1回 NSRI View Live』を配信しました。

VIEW Live 開催報告

いかそう、まちの PPR



第1回 NSRI VIEW Live は、2 時間を 3 部に分けた構成で配信しました。第1部は、本書を執筆した西尾京介 氏と大藪善久 氏（株式会社 SOCI 代表）による「そもそも PPR って何？」です。二人が本書制作に込めた想いを掛け合い形式でお送りしました。ちなみに二人のオススメは、「オールカラー（笑）」、「インタビュー記事」、「人工芝カタログ」でした。

第2部はゲスト 2 名をお招きし、本書 7 つの章立てから主に「インフラ」について語って頂きました（聞き手：大藪氏）。広場ニストの山下裕子氏には福島市のまちなか広場からライブ参加していただき、まちづくりはおせっかい、人口規模に関わらず広場は都市性を感じられる場所、といった数々の印象的なメッセージを伝えて下さいました。園田

聡氏（ハートビートプラン取締役）は、「新とよパーク」

（愛知県豊田市）を手がけた際の具体的なエピソードを交えながら、インフラ検討の重要性や、ソフトの仕組みもインフラであること



PPR the GEARS
公共空間利活用のための道具考



など説得力あふれるお話を熱く語っていただきました。

第3部は、平賀達也氏（ランドスケープ・プラス代表）にご参加いただき、同氏の共著『楽しい公共空間をつくるレシピ』の内容にもふれながら、公共空間を考える上で大切にしたい視点や考え方について、西尾 氏とフリートークしていただきました。コミュニティの成り立ちの背景にある地誌学、地形を俯瞰したエコトーンといった魅力的なパワーワードにもワクワクしました。

この第1回 VIEW Live には、230 名を超える方々にご参加いただきました。終了後のアンケートでは、9 割以上の方に「満足」「やや満足」と回答していただき、「ウェブならではの雰囲気が面白かった」「もう少し詳しく聞きたかった」等々たくさんの感想を頂きました。頂戴した貴重なご意見を踏まえ、NSRI VIEW Live を継続して参りますので、今後の展開に是非ご期待ください。



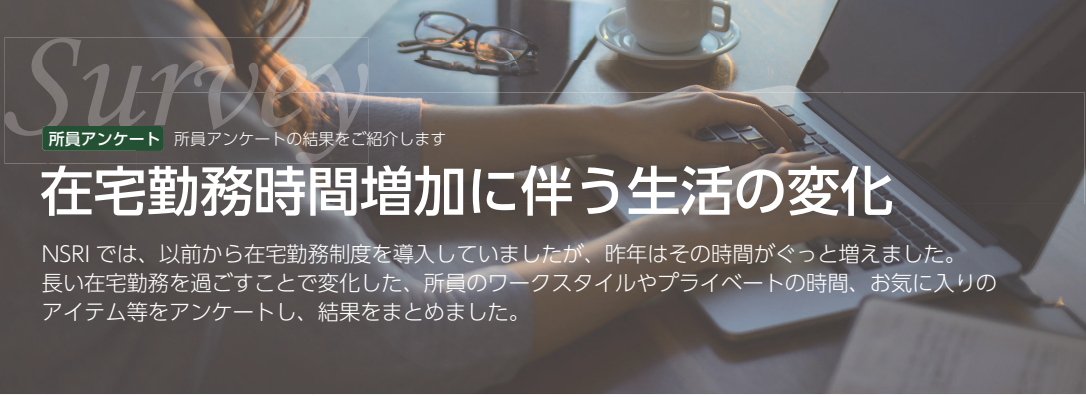
NSRI VIEW Live 事務局

大嶋 亜澄 | おおしま あずみ
研究員



都市計画・まちづくり、地域調査分析

「もっとインタラクティブな意見交換の仕組みを導入したい!」とあって、研究開発会議事務局に押しかけメンバー入りしました。web 会議が主流となった昨今、チャット機能などを使ってすんなり実現しているような気がしますが、有効そうな仕掛けをいろいろ試していきたいです。



所員アンケート 所員アンケートの結果をご紹介します

在宅勤務時間増加に伴う生活の変化

NSRI では、以前から在宅勤務制度を導入していましたが、昨年はその時間がぐっと増えました。長い在宅勤務を過ごすことで変化した、所員のワークスタイルやプライベートの時間、お気に入りのアイテム等をアンケートし、結果をまとめました。

昨年新たにはじめた様々な過ごし方の中から、「おもしろい、すばらしい」と思うものに投票してもらい、「在宅勤務大賞」を決定しました。(総票数 71 名 × 2 票)

🥇 1位

サウナスパ
健康アドバイザー
を取得



31 票

🥈 2位

Youtuber
始めました



28 票

🥉 3位

規則正しい生活、自宅での
運動、仕事を立って行うこと
で 9kg 減量できた



24 票

1位のサウナスパ健康アドバイザーを取得されたのは、入社 2 年目の堤遼研究員。
在宅勤務大賞受賞インタビューに答えていただきました。

サウナスパアドバイザーとは？

厚生労働省が後援しており、サウナに関する知識を身につけることで、健康の質を高めることができ、サウナがもっと楽しめるようになります。加盟している温浴施設で割引が受けられることもあります。

取得しようと思った
きっかけは？

ラジオのパーソナリティがサウナスパ健康アドバイザーを取得すると話していたのに影響を受けました。また、同じころに始めたランニング中に利用したランニ

ングステーションにサウナがあり、興味を持ちました。

おすすめポイントは？

知識を得たことで、サウナで過ごす時間が濃く有意義になりました。温冷を繰り返すことで副交感神経が整い、身体が内から整います。特に脳の無意識下の活動が抑えられて、自然と瞑想に近い状態になれるのが心地よく、私のおすすめポイントです。

またサウナを好きになり、新たなサウナを求めて色々な街を歩くようになりました。地元の人が集まるサウナ、番頭さんがいる銭湯

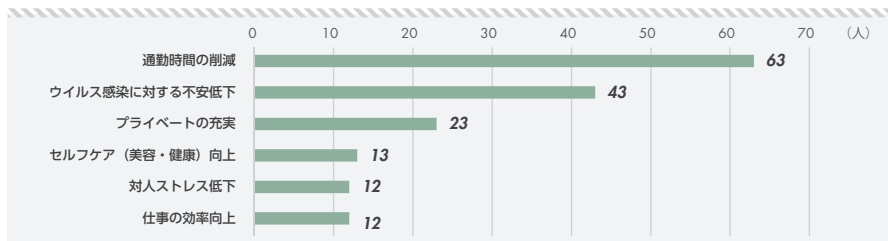
サウナ、飯が美味しいサウナ、外気浴やロウリュウができるサウナなど、サウナを通してその地域を知ることも一つの魅力です。



堤 遼 (つづみ りょう) 研究員

アンケート全体の結果は次ページ

在宅勤務時間が増え、良かったことはなんですか？



在宅勤務時間が増え、プライベートの時間の過ごし方に変化があったと思います。
どのような変化がありましたか。

新たな趣味を見つけた

はい 18%

- ・ Youtuber 始めました
- ・ スパイスカレーづくり、ワインの勉強と試飲、珈琲豆の勉強と試飲
- ・ 公園でヨガをしています 等



家族・友人との時間が増えた

はい 28%

- ・ 子供、愛犬と過ごす時間が増えた
- ・ 家で食事をする機会が増えた
- ・ 遠方の友人とオンラインで気軽に会うようになった 等



資格を取得した

はい 17%

- ・ サウナスバ健康アドバイザー
- ・ 技術士、博士、認定都市プランナー、ビジネス実務法務検定
- ・ 日本語能力試験の勉強 等



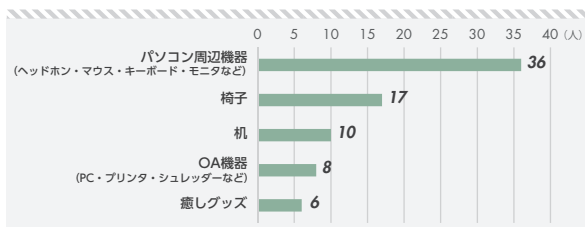
より健康を心掛けた生活ができた

はい 62%

- ・ 自炊の機会が増えた
- ・ ランニングをはじめた
- ・ 自宅でストレッチや運動を始めた
- ・ 睡眠時間が増えた 等



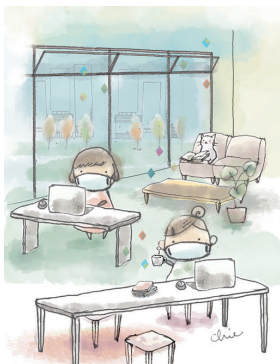
今年導入したお気に入りの在宅グッズは？



(回答者数 65名)

編集後記

VIEW No.129 Jan. 2021



自宅で過ごす時間が増え、ワークスタイルやプライベートな時間が変化しました。私自身も運動不足による身体の衰えが気になり、毎日のストレッチと軽い運動を続けています。

社内で実施した「在宅勤務時間増加に伴う生活の変化」アンケートから、いろいろ工夫して新たなプライベート時間を過ごしている所員が多いことがわかりました。これを機に始めた新しい習慣や趣味などを今後に生かし、健やかに毎日を過ごしていけるとよいと思います。

担当：日建設計総合研究所 VIEW 編集部
お問合せ：webmaster_ri@nikken.jp